瀧野川女子学園中学高等学校 女子校

独自の「創造性教育」と「毎日留学」で「総合型選抜に強い」＝「一般選抜にも強い」を実現

「総合型選抜に驚異的に強い」と注目される瀧野川女子学園。年内に8割の生徒が大学に合格し、中には難関大学の名も連なる。2022年度には第15回文部科学大臣表彰「キャリア教育優良校」にも選ばれた。近年の同校の飛躍は、独自の「創造性教育」と「毎日留学」と呼ぶ英語教育による。その仕掛けについて、山口龍介副校長にうかがった。

副校長
山口龍介 先生

自分のやりたいことで社会に役立つ力を伸ばす教育

「2010年以前、日本の大学教育は、欧米、とりわけアメリカの大学に遅れをとっていました」と話し始めた山口副校長。しかし、日本の大学も先端教育を目指して変わる時に来ていた。

「そこに向けて、中高生をどう教育していくのか。世界の最先端の教育を生徒に届ける前に、そもそも世界の最先端の学びって何なのか？それは、実社会をよくするために、様々な要素を組み合わせることで起きるイノベーション、そういう新しいことを生み出す能力をつける教育だと考えました」

こうして2016年から始めたのが同校独自の「創造性教育」だ。「世の中をよくすること」を、「自分のやりたいことでやる」ための創造性と起業家精神を育むものである。

「こうしたプログラムは、通常の勉強とは別に行われることが多いですが、本校の場合、すべての授業に含まれます。導入で、これから学ぶことは将来にどのように結びつき、どう役立つかを理解してもらうので、本校の生徒は『なぜ勉強するの？』という疑問を持ちませんし、授業中に眠ることがありません」

教室に黒板がない!? 本物のICT教育がここにある

その授業スタイルは、唯一無二といっても過言ではない。同校はコロナ禍以前からiPadを取り入れているだけでなく、黒板を撤去し、全教室に4K大画面のモニターを設置。全教員がクラウドスペースで双方向授業を行える。板書を行わないため、授業は2倍速で進行し、授業前半で学んだことは、後半に活発なディスカッションを行う。

山口副校長が「大学受験レベルを超えた力がつきます」と語る英語教育も注目だ。中1から高1まで、日本人英語教員とネイティブスピーカーの教員がチームで「話す」「書く」のアウトプットを重視した授業を行う。英語で考える力を養いながら、同時に「聞く」「読む」も繰り返す。4技能の中でも特に「話す」力がついてくると、英語力全体がぐっと伸びるという。ネイティブスピーカーの教員は、英語の特別免許を持っているため、オールイングリッシュで授業を受け持つこともでき、「毎日留学」の環境がここにある。

2019年度から黒板にかわり導入された4Kモニターで生徒のiPadと双方向の授業を展開

「海外で学ぶ機会を奪いたくない」と、コロナ禍でも個人の長期留学は応援し、さらに十分な配慮をした上で、海外の語学研修やハワイ修学旅行も昨年度から再開した。生徒に必要だと思うことは、できうる限りの努力をして、与える覚悟のある学校といえるだろう。

「大学受験も世の中も、大変革が起きている中、好きなことに思い切り挑戦しながら、世界に出ていく力をつけられる学校です。説明会に来ていただければ、マニュアルなしで本校の生徒がどんな質問にもお答えします。どうか安心して、本校に飛び込んできてほしい」と山口副校長は力強く話す。

ハワイ修学旅行では授業で企画した商品を現地のチャリティーバザーで販売します

SCHOOL DATA
東京都北区上中里1-27-7
TEL：03-3910-6315

■ AD